

はじめに

本書は、平成二一年から大分県杵築市山香町を中心に実施しております国庫補助事業「国東半島莊園村落遺跡詳細分布調査」の報告書資料編です。本調査の対象地である大分県杵築市山香町は、宇佐神宮の神宮寺であつた弥勒寺の莊園・山香郷の故地です。

戦後六〇年あまりを経て、農業の機械化、生活様式や産業構造の変化、ムラから都市へという人口移動によって、日本のムラは変貌を遂げました。その中で、各地のムラには歴史を物語るものとして、古文書だけでなく、地名や水利、石造物や祭礼あるいは景観など、有形無形の遺産が残されています。本調査は、現在のムラに残された様々な歴史遺産を調査・記録し、現在から過去に遡及的にムラの歴史をたどり、その歴史的価値を明らかにするものです。

本報告書には、「山香郷域」に残る様々な歴史遺産のうち、山香郷を代表する埋蔵文化財の遺跡としての大原遺跡・大原古墳の遺物、そして山香郷のムラの概況と変遷を知ることができる記録類、ムラの姿を視覚的に知ることができる絵図・写真資料などを掲載いたしました。変貌著しい我が国のムラを見つめ直す時、本調査がその契機となれば、幸いであります。最後になりましたが、これまで調査を御指導いただいた調査委員と調査員の先生方、そして調査に御協力を賜りました杵築市・杵築市教育委員会と地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成二五年三月

大分県立歴史博物館

館長 河野 光